

—第19回 デジタルアーカイブ研究会—

日 時 2022年11月23日(水・祝) 13:30~15:30

開催方法 オンライン (Zoomを使用します)

コーディネーター: 井上 透、林 知代

プログラム

※発表時間は10分、質疑応答は5分です。

1. 中国民間企業のデジタルアーカイブのあり方
—コロナ感染拡大を契機にしての再思考— (13:30~13:45)
董 航 (株式会社イノハーブインターナショナル)
2. 千葉県公立図書館デジタルアーカイブの現状と課題 (13:45~14:00)
田村 和美 (株式会社図書館流通センター)
3. 保育者の植物の認知を目的とした教材開発
~子ども達と一緒に楽しめる植物あそびについて~ (14:00~14:15)
上運天 桜子 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科)
4. 垣花町に残った御物城の保存・活用のためのデジタルアーカイブの取り組み (14:15~14:30)
前城 一弘 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科)
5. 地域資料デジタル化の課題と解決に向けた方策 (14:30~14:45)
前川 道博 (長野大学)
6. 「エピソード記述」の視点を取り入れたメタデータに関する一考察 (14:45~15:00)
谷 里佐 (岐阜女子大学)
7. デジタルアーカイブ活用としてのメタバースの可能性 (15:00~15:15)
櫛 彩見、吉山 明里 (岐阜女子大学)
8. 長良川鉄道用地図のデジタルアーカイブ化 (15:15~15:30)
林 知代、脇原 渚 (岐阜女子大学)

第 19 回デジタルアーカイブ研究会 発表概要

1.	<p>中国民間企業のデジタルアーカイブのあり方 —コロナ感染拡大を契機にしての再思考—</p> <p style="text-align: right;">(13:30~13:45)</p> <p style="text-align: right;">董 航 (株式会社イノハーブインターナショナル)</p> <p>ここ数年間、中国では本格的なDX化推進政策の実施が挙国体制で図られている。こうした背景の下で、プラットフォームビジネスを中心に展開するIT企業の躍進も民間企業のデジタルアーカイブに拍車をかけることになっている。しかし、コロナ禍に迫られて、生き残ることを優先してデジタルアーカイブなどが後回しになる場合もしばしば見られる。そのなかで民間企業のデジタルアーカイブがどうあるべきかを再思考したい。</p>
2.	<p>千葉県公立図書館デジタルアーカイブの現状と課題</p> <p style="text-align: right;">(13:45~14:00)</p> <p style="text-align: right;">田村 和美 (株式会社図書館流通センター)</p> <p>公立図書館におけるデジタルアーカイブの本来の在り方、役割について、現状を調査し分析した。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の図書館への影響や、その後の電子図書館導入、デジタルアーカイブを進めている職員状況、TRC-ADEACでデジタルアーカイブを進めている自治体の特色など、様々な視点より調査、考察し、今後の課題を明らかにした。</p>
3.	<p>保育者の植物の認知を目的とした教材開発 ～子ども達と一緒に楽しめる植物あそびについて～</p> <p style="text-align: right;">(14:00~14:15)</p> <p style="text-align: right;">上運天 桜子 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究所)</p> <p>本研究では、保育中に利用できる『植物あそび』のデジタルアーカイブを目指す。保育士として勤めて3年目になる。園庭の植物を使った色水遊びやままごと遊び等が行われるなど、植物と保育は密接なかかわりがある。しかし、植物名と実物が一致せず、植物を使った遊びがわからない等の困り感が、経験年数の少ない保育者にとって悩みの種となっている。そこで、園にある植物情報をデジタル化し共有することで、子ども達と遊びの中で利用できる教材の開発を進めている。</p>
4.	<p>垣花町に残った御物城の保存・活用のためのデジタルアーカイブの取り組み</p> <p style="text-align: right;">(14:15~14:30)</p> <p style="text-align: right;">前城 一弘 (岐阜女子大学大学院 文化創造学研究所)</p> <p>垣花町(現 那覇軍港施設内)には戦後直後までグスクが2つ存在していた。屋良座森城は米軍の港湾の拡張工事により破壊されたが、琉球王国時代に貿易の中心として栄えた歴史ある御物城はなんとか原型を留めている。しかし、特徴あるアーチ門や石垣の壁は崩落の危機にある。筆者は御物城が所在する那覇軍港施設内に勤務しており、この状況と御物城の存在を沢山の方に知ってもらい、保存に向けた動きの一助となることを目指し、デジタルアーカイブ活動を進めている。</p>
5.	<p>地域資料デジタル化の課題と解決に向けた方策</p> <p style="text-align: right;">(14:30~14:45)</p> <p style="text-align: right;">前川 道博 (長野大学)</p> <p>デジタルアーカイブの大きな課題の一つは地域資料のデジタル化が極度に立ち遅れていることである。DXが進む現代においては資料のデジタル化により誰もが地域の情報源に直に触れ、主体的に地域を学び・理解に踏み出すことのできる社会の実現が望まれる。本研究では、地域資料のデジタル化が図れるデジタルアーキビストの養成を地域人材のリスキル/リカレント教育の観点から具体的にどのように課題解決が図れるかを考察する。</p>
6.	<p>「エピソード記述」の視点を取り入れたメタデータに関する一考察</p> <p style="text-align: right;">(14:45~15:00)</p> <p style="text-align: right;">谷 里佐 (岐阜女子大学)</p> <p>「エピソード記述」とは、対象とする活動等に関して、自分を含め、観察した事実や思ったこと、感じたことを記述する手法であり、主に保育分野の記録において用いられている。この「自分を含めた事実や思い」を記録することは、デジタルアーカイブの対象となる多種多様な情報資源の記録においても重要な視点ではないかと考えた。そこで、「エピソード記述」の視点を取り入れたメタデータに関するアンケート調査から、その効果について考察した。</p>

7.	<p>デジタルアーカイブ活用としてのメタバースの可能性</p> <p style="text-align: right;">(15:00~15:15)</p> <p style="text-align: right;">櫛 彩見、吉山 明里 (岐阜女子大学)</p> <p>デジタルアーカイブの活用形態はデジタルデータや印刷物での提示が主であるが、急速に広がりつつあるメタバースも新たな活用形態として期待できる。そこでデジタルアーカイブを用いて Mozilla Hubs にて2つのメタバースを作成してアンケート調査を行った結果、没入感が高く直接資料に触れることに近い体験になること、離れたところにいる人と意見交換等の交流を図れることから、デジタルアーカイブの発展につなげることができると思う。</p>
8.	<p>長良川鉄道用地図のデジタルアーカイブ化</p> <p style="text-align: right;">(15:15~15:30)</p> <p style="text-align: right;">林 知代、脇原 渚 (岐阜女子大学)</p> <p>岐阜県の中濃地域を走る長良川鉄道は、旧国鉄の越美南線を引き継いで運営されている第3セクター鉄道である。本研究では、旧国鉄から引き継がれ、現在も日常業務で活用されている鉄道用地図のデジタル化を行った。デジタルアーカイブ化することで、担当者の業務のストレスを減らすとともに、歴史資料としての価値も見えてきた。企業資料のデジタルアーカイブの意義と今後の可能性について考察する。</p>

※発表時間は10分、質疑応答は5分です。

<p>デジタルアーカイブ研究会 研究会実施事務局 (岐阜女子大学)</p> <p>〒500-8813 岐阜市明德町10番地 岐阜女子大学文化情報研究センター内</p> <p>電話 : 058-267-5301 (日本デジタルアーキビスト資格認定機構)</p>
